



思いは実現する！平凡な主婦だった私が世界的フラワーアーティストになるまで

フラワーアーティストとして、「KAORUKO流」フラワーウエディングのプロデュースや国内外のブライダルショーを中心に世界的に活躍しているKAORUKOさん。



南青山4丁目イタリヤ邸宅KAORUKOハウスでのオリジナルウエディング

フラワーアーティストとして、「KAORUKO流」フラワーウエディングのプロデュースや国内外のブライダルショーを中心に世界的に活躍しているKAORUKOさん。

2010年は念願がなって南青山にハウスウエディングができるサロンKAORUKOハウスをオープン。

一流ホテルやレストランとのコラボレーション、東レ・パンパシフィック・テニスにご来臨の聖母がたのお



横浜の閑静な高級住宅街山手にたたずむKAORUKOさんの自宅兼サロン

がある。ブライダルフラワープロデューサーという新しいジャンルを切り開き、近算2万組のオリジナルウエディングを手掛ける。テレビや女性誌で人気のカリスマアーティスト。2003年、日本人として初めてパリコレウエディングのフラワーコーディネートを担当。国内外のショーで活躍しながら、多くの女優や著名人のフラワーコーディネートを手掛ける。美意識の高い花嫁には圧倒的な支持を得ている。2月にはKAORUKOブランドのブーケドレスが発表され、KAORUKOが行く海外旅行ツアーも好評。また、多忙の中でも直接レッスンを売っている。

■書籍に『KAORUKO花スタイル』（アシェット婦人画報社）『KAORUKOのオール・ドゥ・ヴァーヴルな暮らし』（DHC出版）『夢もかなえる仕事術〜幸せを呼ぶ法則〜』（誠文堂新光社）など。

■公式ホームページ「花・恋し・幸せ・KAORUKO」
http://www.kaoruko.co.jp/index.html

迎え花や、選手のためのブーケ、フラワーショーでのデモンストラーションなども行っています。

昨年開催された上海万博でのKAORUKOショーが好評だったことから、近々中国での仕事も始まるそうです。花を華麗に操るカリスマアーティストとして進化が止まらないKAORUKOさんの横浜のご自宅兼サロンにお邪魔し、「KAORUKO流 夢をかなえる法則」をたっぷりお聞きしました。

日本人で初めて、パリ・コレクションのフラワーコーディネートを任せられたという経歴から、若いころからエリートコースで着実にキャリアを積んできたと思いきや、実はそうではないそうです。

電流に打たれたような運命的な出会い

私がフラワーデザイナーになったきっかけは、自分の結婚式が始まりました。ごく平凡な専業主婦になり、子育てをしながら湧き出る思いをかなえ出したのが29歳のときでした。

私がフラワーアレンジメントと運命的な出会いをしたのは、大手企業に勤め始めて2年目の22歳のとき。「これからの花嫁修業」としてフラワーアレンジメントが取り上げられ

た雑誌の記事を見たのがきっかけです。お花に関係するお稽古といえは「生け花」のイメージだった時代。

その記事を見た瞬間、林じゅうを電流が流れました。「私もこんな素敵なアレンジメントを作れるようになりたい！」

そして、熱に浮かされたように、仕事をしながら週3回、睡眠時間を削ってお稽古に通うようになったのです。



横濱リロンのテラスにて、あっという間にコーディネートが完成！取材班一同驚愕

結婚式は、23歳での自分の結婚式には、自作のヘッドドレスとブーケで式に臨むことができました。でも、一つだけ不満が残りました。テーブルの装花が思うようにリクエストできなかったのです。当時は式場のお任せのものの中から選ぶことしかできませんでした。

結婚式は、女性が一生でいちばん輝くときです。その日だけは、誰もが女優として自分の人生のステージで主役を演じます。「二人の思いを花で表現するような素敵なウエディングのお手伝いができるようになりたいら……」。漠然とそんな夢を心に思い描くようになりました。

人との出会いが運命の扉を開く

結婚して2年後、私は夫の転勤先の鹿児島で暮らすことになりました。子どもも2人授かり、幸せな日々でしたが「私はこのまま主婦として終わるのかしら……」と正直、焦りにも似た気持ちを抱きながら、アメリカのカリスマ主婦マーサ・スチュアートの本をめぐってはため息をつくこともありました。いつか私もマーサのように、女性の生活を楽しく演出するような仕事が出来たい。

そして4年後チャンスが訪れます。夫が横浜に転勤になったのです。私は驚きのあまり飛び上がりそうになりました。昔から横浜に憧れていた私は、「高級住宅街の山手に住んで、山下町にアトリエを持つ」というのが夢で、なんと命令が出る3日前に、かつて自分が横浜の山下公園付近を描いた油絵を押し入れの中から見つけ、玄關にかけたばかりだったからです。なんだが運命が味方してくれているような気がしました。

そして29歳のとき晴れて横浜に転居した私は、念願のフラワーアレンジメント教室を開いたのです。最初の生徒は、ママ友達がたった2人。それからの道のりを思い返すと、

私は「人との出会い」のたいせつさを思わずにはいられません。町の教室クラブで月に1回、ガーデンウエディングをプロデュースするようになったのは、生徒の一人からの助言によるものでした。さらにそれを見たかたに、老舗デパートのカルチャークールの講師として紹介されたのがきっかけで、デパート主催のウエディングショーのお花を任せられるようにもなりました。

このショーで、大恩人であるウエディングドレスデザイナーの桂由美先生と出会い、KAORUKOオリジナルの「挿れるブーケ」を考案しました。桂先生から国内外でのウエディングショーのお花を一任され、本格的にフラワーアーティストとしての道を歩むことになったのです。

世間知らずの主婦だった私は、採算も度外視して目の前の仕事に必死で取り組んできました。だまされてお金を払ってもらえなかったことも一度や二度ではありません。しかし、それでもあきらめず必死に働く姿を見て、手を差し伸べてくれる人が必ずい

強く願ったことが次々と実現する

1998年、桂先生から女優の難形あきこさんのウエディングブーケを任せられたことがターニングポイントとなり、私は世に広く知られるようになった。テレビに映った私のブーケを見て、翌日から取材依頼と「私にもお花を教えてください」と「同じブーケやヘア飾りを結婚式で作ってほしい」という電話が殺到するようになったのです。

以前にも増して忙しくなった私は、無我夢中で目の前の仕事をこなしました。そうこうするうち、夢の



松蔭宮殿下のために生けられたお迎え花 ©2003 東レFPOアニス